

年頭のごあいさつ

南部町長 佐野和広

新しい年を迎え、町民の皆様には、今年こそ平穏で平和な年でありますようにと願われたことと存じます。

昨年をふり返りますと、ギリシャの財政破綻に端を発したユーロ圏欧米の金融不安、国内では急激な円高により輸出産業への大打撃を招き、製造業の空洞化・雇用情勢の悪化など、未だに景気回復の兆しさえ見えません。さらにTPP（環太平洋連携協定）への参加をめくり、今なお国内が揺れており、税と社会保障の一体改革の論議の中で、消費税率引き上げの発言が更に拍車をかけております。

ところで昨年は日本にとりましては、国難ともいっべき大変な年でありました。3月11日に発生しました、太平洋三陸沖を震源としたマグニチュード9の大地震により東日本を中心に甚大な被害がもたらされました。

また、福島原発事故による放射能漏れにより、未だに故郷に帰れない多くの人々がおります。その悲惨さを見るにつけ、一刻も早い復興を願わずにはおられません。

さて、昨年は1月の知事選を皮切りに県議選、首長選と統一地方選が行われ、私も第三代南部町長として町政の舵取りを担う事となりました。就任後の足跡を辿って見ますと、6月20日永年の夢でありました中部横断自動車道の開通に向けて静岡県との県境、樽峠トンネルの安全祈願祭を挙行し、平成29年供用開始に向けての工事が急ピッチで進められたことがあります。

7月に入りますと原発事故による電力不足が日常生活に支障をきたし、その事が原発に代わる代替エネルギーを前向きに検討させるきっかけにもなりました。

8月15日には震災の影響で開催が危ぶまれました“火祭り”を挙行しました。開催にあたり露天商組合の問題が浮上しましたが、地元商店

を中心とした出店により成功裏に終わりました。これを踏まえ今後は商工会の活動に期待を寄せていこうと考えています。

9月21日には台風15号が上陸し、南部町全域に渡り大きな被害をもたらしました。身延線の線路崩壊による身延・西富士宮間でのバス代行を余儀なくされ、住宅の床上浸水・農作地への土砂堆積・山林の倒木・道路損壊など、かつて経験したことのないほどの大災害でありました。被害の大きさをから局地激甚災害に準ずる形での査定が認められ現在大急ぎで復旧作業にあたっております。

文化・教育面に目を向けてみますと、新南部中学校がスタートし、1年目から統合による大きな成果が見られました。県中学校夏季総合体育大会「野球の部」で見事県下No.1となり関東大会出場を果たし、吹奏楽部も県吹奏楽「ソフール」で金賞を受賞し、西関東大会でも金賞という輝かしい実績を残しました。

11月26日には谷川俊太郎先生作詞、久石譲先生作曲の南部中学校校歌が披露され、同時に校章も掲揚されこの日を南部中学校開校日と制定されました。また、長年地域の伝統文化の継承として演じられてきました内船歌舞伎が県の無形民俗文化財に指定され、来年1月開催の国民文化祭山梨大会での南部町展作品となりました。

さて、今年度に向けての町政推進への考えですが、私の公約であるマラエスト実現への思いもありますが、今は新たなものにチャレンジするよりも山積している課題に対して着実に対処して行くことが舵取りを切り替えました。

最大の課題は何と言いましても老朽化した施設にその処理を頼っている「3」問題であります。

機械内部の損傷は激しく、部分的な応急処置で対処しておりますが、いつ全壊するかもしれない

い状況にあります。資源の循環型社会の構築が叫ばれて久しいのですが、何としてでも今年度中にその解決を図るべく不退転の覚悟で臨みます。

次に防災に関してです。東海地震の震源域の上に位置する我が町はその対策が急務であります。加えて昨年9月の台風におきまして、あのような被害を受けましたから、尚更その思いを強くしております。

「地域防災計画」の見直しと実行により、地域の力と行政との協働による災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。ところで、南部町は平成15年の合併から9年が経過し町の人口も一万人から九千人へと毎年百人以上が減少しております。人口増につなげる施策をいこうと思ひ描いているのですが、今は人口減少という現実を受け入れた地域づくりに専心せざるを得ません。その為のキーワードは「スマート化」にあると考えます。財源の乏しい本町は地方交付税が主要財源です。ちなみに歳入全体に占める割合は40%にも上ります。この普通交付税は今までの合併算定から、平成25年度より一本算定化により段階的に減収となります。限られた財源の中での町政運営ですから、今後は施設の機能を集約・集積して維持管理、「3」の低減を図ったり、各種事業に対して必要性や有効性を精査し、「最小の経費で最大の効果」を生み出せる様、職員と一丸となつて取り組んでまいります。

新春早々、大変厳しい現実をのべましたが、子供から大人まで、いたわりあい・支えあい・郷土愛を持ち、強い絆の結びあう「住んでよかった」と思える町づくりに邁進してまいりますので、更なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに本年が町民の皆様にとりまして良い年であります様、ご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。